

芸術科「音楽Ⅰ」学習指導案

実施時期	平成24年11月12日（月）
実施学級	生物生産技術科 第1学年1組（男子24名 女子16名）
実施場所	音楽室
授業者	県立杉戸農業高等学校 教諭 高宮洋平

1 題材名 「日本歌曲を歌おう」

2 題材について

（1）本校の実態

本校は1学年6つの学科から成り立っており、入学時より基礎学力や生活態度において学科間差がある。音楽Ⅰの授業は必修科目であるため、6学科に対してそれぞれ指導の仕方が多種多様である。本校の生徒は挨拶がしっかりとでき、教員の指導にも素直に耳を傾けることができる。

（2）クラスの実態

授業全般にわたって知識や学力を意欲的に吸収しようという願いを強くもっているクラスであり、音楽の授業においては一人一人が大変元気よく歌うことのできるクラスである。発声に関しては伸びやかに大きな声で意欲的に歌うことができる。今までに取り組んだ歌唱曲は、「翼をください」「少年時代」「Believe」「世界に一つだけの花」「上を向いて歩こう」「エーデルワイス」「O sole mio」「Tonight」であり、1学期は「Sound of music」、2学期は「West Side Story」をそれぞれ鑑賞している。

学習に取り組む姿勢においては受け身である生徒が多い。与えられた課題に対してはこなすものの、発展的に自己を高めていこうといった積極性をもった生徒は少ない。また、コミュニケーション能力についても課題のある生徒がおり、表現力の点で個人差がある。

これらの実態を踏まえ、音楽の授業で親しみのある歌曲を体験させるとともに、楽曲の背景や心情に寄り添い、集団の中でも堂々と表現できる能力をより高めさせたい。

（3）題材設定の意図

本題材は学習指導要領のA表現（1）歌唱のA「曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うこと」と、同じく歌唱のイ「曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと」を受けて設定したものである。本題材で使用する教材は、日本を代表する唱歌「赤とんぼ」と「待ちぼうけ」である。この2曲は“心の歌”として扱われており、我が国で長い年月にわたって歌い継がれている。主教材として取り上げる「赤とんぼ」は、全体では8小節という大変短い楽曲ながらも、歌詞やメロディーが大変味わい深い作品である。生徒の人間関係、コミュニケーションが希薄になっている現状を踏まえ、歌詞の背景や曲想を考え、情景や心情をイメージし、日本語の美しさを感じながら旋律を豊かに表現して歌唱することを目指して、この題材を設定した。

3 題材の目標

- （1）日本歌曲、楽曲に合った声の出し方や歌い回しに関心をもち、イメージをもって主体的に歌唱活動に取り組む。（音楽への関心・意欲・態度）
- （2）リズム、速度、旋律、強弱を理解し、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取ったり、自分の思いや意図をもって表現を工夫する。（音楽表現の創意工夫）
- （3）イメージをもって音楽表現するために必要な技能を身に付け、日本語の発音や呼吸法、読譜などのよりよい表現をする。（音楽表現の技能）

4 教材及び教材選択の理由

主教材 「赤とんぼ」 (作詞：三木露風 作曲：山田耕筰)
 関連教材 「待ちぼうけ」 (作詞：北原白秋 作曲：山田耕筰)

*「赤とんぼ」について

「赤とんぼ」は三木露風が幼少時を思い出してつくった詩である。詩は1921（大正10）年に発表された。1927（昭和2）年に、山田耕筰によって作曲されたこの曲には、故郷ある龍野での幼いころの心情が見事に描かれている。「赤とんぼ」「桑の実」「姐や」など言葉から想起される作者の想いを理解し、表情豊かな旋律によって生まれる詩の叙情性を感じ取らせたい。

*「待ちぼうけ」について

愚かな男が毎日働かずに、獲物（うさぎ）がぶつからないかと切り株を見張っていたので、畑が荒野になってしまったという中国の故事をもとに、詩人・歌人の北原白秋（1885－1942）が作詞した。示唆に富んだコミカルな曲である。

*三木露風について

1889年生まれ。兵庫県龍野市生まれ。北原白秋と並び称された詩人。1964年没。

*山田耕筰について

1886年生まれ。東京都生まれの作曲家・指揮者。1908年、東京音楽学校（現東京藝術大学）声楽科を卒業後、ベルリン音楽大学で作曲を学んだ。我が国作曲界における功労者であり、交響楽団の育成にも寄与した。1965年没。

5 評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	①曲想と歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心をもって取り組もうとしている。 ②楽曲に合った声の出し方や歌い回しに関心をもち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じようとしている。 ②「赤とんぼ」の曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取ったり、自分の思いや意図をもって表現を工夫しようとしている。	○イメージをもって音楽表現するために必要な発声、日本語の発音、呼吸法、読譜などの技能を身に付けようとしている。
1 時	①		○
2 時		①	
3 時	②	②	

6 指導と評価の計画

時	◆ねらい ・学習活動	評価規準・評価方法
1 (本時)	◆曲想と歌詞の内容、楽曲の背景との関わりなどに関心をもつ。 ・歌ったり聴いたりして、曲想、歌詞、音楽的な特徴について考える。 ・「夕やけ」「赤とんぼ」「桑の実」の写真を見て、歌詞が表す情景のイメージを膨らませたり、歌詞の内容（「負われて見たのは」「まぼろしか」「十五で姐やは嫁に行き」「とまっているよ竿の先」など）から楽曲の背景を考えたりして、再度歌ったり聴いたりする。 ・資料や教師の説明によって山田耕筈について知るとともに、曲想と歌詞の内容や楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴について考える。	《音楽への関心・意欲・態度①》 曲想と歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心をもって取り組もうとしている。 ＜観察＞＜プリント＞ 《音楽表現の技能》 イメージをもって音楽表現するために必要な発声、日本語の発音、呼吸法、読譜などの技能を身に付けようとしている。＜演奏＞ ＜プリント＞
2	◆音楽を形作っている要素（リズム、速度、旋律、強弱）を知覚し、それらの働きを感受する。 ・リズム、音の高低などを意識して歌う。また、楽譜上の強弱記号などの特徴について確認する。さらに、歌詞が表す情景や心情を思い浮かべながら歌う。 ・歌詞の内容や抑揚、旋律の音の高低、速度などに注意をして歌う。	《音楽表現の創意工夫①》 リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しようとしている。 ＜観察＞＜プリント＞
3	◆歌詞が表す情景や心情などを生かし、思いや意図をもって楽曲にふさわしい歌い方、音楽表現を工夫する。 ・楽譜やプリントに書いた内容を見てイメージを膨らませながら、発声、発音、抑揚、速度などに注意をし、歌唱表現を追求する。 ・楽曲にふさわしい声の出し方や歌い回しの表現を工夫する。	《音楽への関心・意欲・態度②》 楽曲に合った声の出し方や歌い回しに関心をもち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。＜観察＞ 《音楽表現の創意工夫②》 赤とんぼの曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取ったり、自分の思いや意図をもって表現を工夫しようとしている。 ＜観察＞

7 本時の学習指導（1／3）

（1）本時の目標

- ①曲想と歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心をもって取り組む。＜音楽への関心・意欲・態度＞
- ②イメージをもって音楽表現するために必要な発声、日本語の発音、呼吸法、読譜などの技能を身に付ける。＜音楽表現の技能＞

（2）展開

	○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的評価規準（評価方法・手だて）
1 導入 (10分)	・号令・点呼・忘れ物チェック ・校歌 ・既習曲①「オー・ソレ・ミオ」 ・既習曲②「トゥナイト」	○校歌を元気よく歌い、授業の雰囲気を高めさせる。 ○今まで学んだ歌唱曲を伸びやかな発声で元気よく歌わせる。 ○楽譜の記号や歌詞の発音などに注意させる。 ○ブレスが浅くならないようにしっかり息を吸うように注意させる。

2 展開 (35分)	○「赤とんぼ」の模範唱（CD）を聴き、雰囲気を感じ取る。 ○歌詞が表す情景のイメージ、作曲者についての知識を深める。 「夕やけ」「赤とんぼ」「桑の実」の写真を見る。 ・歌詞の内容から楽曲背景を考える。 ・山田耕筰について学ぶ。 （・「待ちぼうけ」を視聴する。） ○再度、模範唱を聴き、雰囲気を感じ取る。 ○楽曲を歌う技能を身に付ける ・階名唱で音取りを行う。 ・各音の階名を確認する。 ・歌詞をつけて歌う。	○これから学習する作品がどのような作品なのか、雰囲気を感取らせる。 ○写真を見て、情景のイメージを掴ませる。 ○歌詞について考え、楽曲の背景を感じ取らせる。 ○山田耕筰の生い立ち、代表作品などを理解させる。 ☆ アー① ※Bと判断する具体的な状況は、曲想と歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わり、作曲者について関心を持ち、自分の考えをまとめ、自ら発言したり、他者の発言を聞き、それに対して反応をすることのできるである。 ※Aと判断する具体的な状況は、曲想と歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わり、作曲者について関心を持ち、自分なりの考えを明確にまとめ、他者へ伝えたり、他者の発言に集中して耳を傾け、さらに自分のイメージや考えを深めようとしているである。 ○山田耕筰の他の作品を視聴し、作曲家に対しての親しみをより深める。 ○楽譜を見ながら聴き、楽曲に対するイメージをより高めさせる。 ○跳躍の音程など、しっかり音程が取れるように繰り返し練習させる。 ○学習した内容に注意しながら全体を通して歌唱する。 ☆ ウ ※Bと判断する具体的な状況は、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取ったことを基に、音楽表現するために必要な発声や日本語の発音、強弱や速度などについて知識を吸収しようと努力することのできるである。 ※Aと判断する具体的な状況は、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取ったことを基に、音楽表現するために必要な発声や日本語の発音、強弱や速度などについて明確に理解し、積極的に実践しようとしているである。
3 まとめ (5分)	○自己評価シートの記入	○本日の反省を評価シートに記入させる。

8 準備したもの

- ・パソコン（パワーポイントで作成）
- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・CDデッキ
- ・模範唱CD
- ・授業プリント（別紙参照）
- ・教科書

9 板書計画について

- ・赤とんぼの授業を行う際、プロジェクターを使用して映像を見せながら展開した。
- ・作成ツールはパワーポイントを使用した。
- ・生徒の楽曲に対するイメージを高めるため、歌詞に登場してくる「夕やけ」「小やけ」「桑の実」、作詞者、作曲者の画像をたくさん取り入れた。
- ・理解度をより高めるため、授業プリントを用いた。（プリントの内容とパワーポイントの流れが連動するように作成した。）
- ・模範唱ではCDを用いて視聴した。

～日本歌曲を歌おう～

「赤とんぼ」 作詞：三木露風 作曲：山田耕筰

1. 「赤とんぼ」の模範演奏を聴いて、感じたことを自由に記入してみましょう。

2. それぞれの歌詞の内容から背景を考えよう。

1 番 「夕やけ小やけの赤とんぼ 負われて見たのはいつの日か」

Q. 1 負われているのは誰か？・・・（ ）

Q. 2 負っているのは誰か？・・・（ ）

Q. 3 負われている人の年齢は？・・・（ 歳位 ）

2 番 「山の畑の桑の実を 小籠に摘んだはまぼろしか」

Q. 1 誰が桑の実を摘んだのでしょうか？・・・（ ）

Q. 2 その人は他に誰かと一緒に摘んだのでしょうか？・・・（ ）

3 番 「十五で姐やは嫁に行き お里のたよりも絶えはてた」

Q. 1 お里の便りは、誰が誰に出していたのですか？・・・（ ）

Q. 2 その頃露風は何歳ぐらいだと思いますか？・・・（ 歳位 ）

4 番 「夕やけ小やけの赤とんぼ 止まっているよ竿の先」

Q. 1 この詞の描写はいつのことを言っているのか？昔？それとも今現在？

()

Q. 2 露風はどんな気持ちで赤とんぼを見ているのでしょうか？

()

3. 歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わりを踏まえ、あなたはこの「赤とんぼ」をどのような思いを込めて歌いたいですか？まとめてみましょう。

MEMO